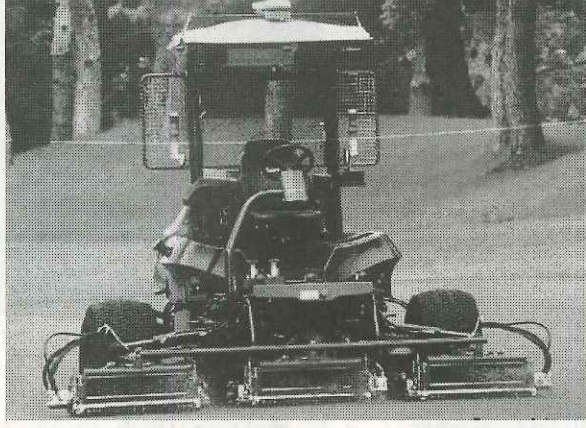


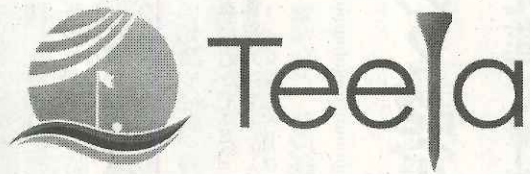
ゴルフ場運営を改革

人手不足、コスト高等に対応

ゴルフ市場活性化および成長拡大に向けて団体・企業が様々な取り組みを続けている。そうした中、パシフィックゴルフマネージメント（PGM）は、新しいゴルフ場運営システム「TeeJa（ティーラ）」を独自開発し、昨年8月20日からPGMグループ全ゴルフ場に本格導入した。将来的には他のゴルフ場運営会社への販売も視野に入れている。また同社は、㈱共栄社が開発し20年9月から販売開始する無人芝刈機の開発にも協力。プレートの基盤となるゴルフ場運営の方向から市場革新に取り組んでいく。



共栄社開発の無人芝刈機



新ゴルフ場運営システム「ティーラ」

PGMが新たに開発した「ティーラ」は、ゴルフ場の維持管理に欠かせない重要な位置づけのシステムとなる。ゴルフ場業界において、ゴルフファーマー人口の減少傾向にともない収益確保が大きな課題であり、大規模ゴルフ場では人件費やコース管理費、昨今では災害復旧費用など運営コストの増大が収益を圧迫する要因となっている。加えて、人手不足・人員確保は喫緊の問題であり、IT化への対応も急がれている状況だ。

こうした業界環境を見据えて同社は、2014年5月にプロジェクトをスタート。2016年12月から3年を掛けてシステムを開発。ゴルフ場研修やテスト導入などを経て、昨年8月にPGMグループゴルフ場での本格稼働に至った。

「ティーラ」は、システム導入のしやすさを考慮し、パソコンとインターネットがあれば利用できるクラウドサービスでシステムを構築しているのがポイント。このシステム構成がPGMグループにおける一斉導入を可能とし、導入コストのみならずランニングコストも約50%削減する効果を生み出すという。

さらに「ティーラ」は、ゴルフ場運営システムでは初となるレベニューマネージメント機能を装備。このため、これにより、各ゴルフ場における日々の需要予測と価格の最適化が実現し、「最良の夕

新無人芝刈機開発に協力
顧客サービスの向上へ

ゴルフ場運営の改革という点では、緑地管理機器製造で長年の歴史を有する共栄社への開発協力で、新たに無人芝刈機を開発。2020年9月に販売を開始する。

両社は、ゴルフ場においてコース管理部門が抱える人員確保、時間的制約がある中での作業効率化、作業労力の軽減、事故や作業ミス等の防止、技術継承などの課題解決

「ティーラ」は、平和とPGMが協働でソフトウエアをつくり、本体開発は東芝テックに委託していたもので、同社では2020年春までにグループゴルフ場の大半に導入することを目指す。

今回開発された共栄社の無人芝刈機は、2018年4月からPGMが運営するサンヒルスカントリークラブ、新城カントリー倶楽部、三木の里方インストラクターズで、デモンストレーションや走行・芝刈作業テストなどの各種検証プログラムを実施するなど、PGMが開発に対してコース管理

「インテグ」で「最適な価格」での販売が行えることになり、売上の最大化のサポートにつながる。一方、同社は「ティーラ」と並行して進めているプロジェクトとして、セルフチェックインモニター、発券機モニターなど複数の機能モードを搭載したセルフレジの開発も発表。平和とPGMが協働

の。新無人芝刈機は、オペレーターのリリ込み作業データを記憶させることで、人が操作することなく高精度な刈り込みを可能にするという。3Dカメラや各種センサーを搭載し非常時には自動停止するように設計されており、安全面にも十分配慮されている。

新ゴルフ場運営システム発表の席上、PGMの顧客サービスに注力できることになる」と話している。ゴルフ産業において、ゴルフ場の質・サービス向上は成長発展の両輪であり、同社の取り組みが求められている」と、同社がプロジェクトを進める背景を説明。その上で、「業務の改善により

ゴルフ場スタッフはより顧客サービスに注力できることになる」と話している。ゴルフ産業において、ゴルフ場の質・サービス向上は成長発展の両輪であり、同社の取り組みが求められている」と、同社がプロジェクトを進める背景を説明。その上で、「業務の改善により盤全体の強化に繋がる。